

学校運営協議会 議事録

校名	府立たまがわ高等支援学校
校長名	坂田 定之

開催日時	令和7年3月11日(火) 10:00 ~ 11:30
開催場所	たまがわ高等支援学校 会議室
出席者(委員)	協議会委員6名 会長：土口千恵子(四天王寺大学 教授) 副会長：安藤敦子(府立たまがわ高等支援学校 PTA会長) 【以下五十音順】 岡本弘美(府立たまがわ高等支援学校 たまがわ会理事) 奥村貴寿(ハウスあいファクトリー株式会社 代表取締役社長) 酒井京子(大阪市職業リハビリテーションセンター 所長) 中村一誌(稲葉第一自治会 会長)
出席者(学校)	事務局員10名 坂田定之(校長) 今坂真悟(教頭) 吉岡宗一(事務長) 勝井玲奈(首席) 川島秀文(首席) 有馬成人(地域支援部長) 中島武彦(進路指導主事) 吉村晴海(指導教諭) 藤井隆(学習支援部長) 高橋唯(生活支援部長兼保健主事)
傍聴者	なし
協議資料	〈資料1〉令和6年度学校評価(案)について 〈資料2〉令和7年度学校経営計画(案)について 〈資料3〉進路状況について 〈資料4〉学校生活について
備考	

議題等(次第順)

- (1) 令和6年度学校評価(案)について (2) 令和7年度学校経営計画(案)について
(3) 報告事項①進路状況について ②学校生活について (4) その他

協議内容・承認事項等(意見の概要)

- (1) 令和6年度学校評価(案)について
概ね第2回の会議で説明済み。年度末の評価を◎○△で示し説明。網掛け部分は3月末に最終の結果として時点修正を行う箇所。
- (2) 令和7年度学校経営計画(案)について
令和6年度に残した課題(指標未達成で評価△のもの)、本協議会でいただいたご意見をもとに、新規目標・評価指標を盛り込み、案を作成。大阪大学との連携事業については2年めとなる。概ね3年間の中期的目標については評価指標の一部変更はあるが項目の変更はなし。
- (3) 報告事項
①進路状況について
令和6年度就職率92.6%(63/68) 学校紹介正社員採用24.6%(15/61) 本人・保護者の希望も多いが、正社員雇用に関しては厳しい。正社員雇用の会社の内訳として特例子会社4社、また介護職は正社員雇用が多い傾向。高卒求人の会社の条件があれば正社員雇用となるケースもある。
- ②学校生活について
・スマホの使い方 生徒会を中心に校内ルールを1年かけて生徒とともに検討する予定。
・新制服 令和8年度入学生より新制服となる。生徒・保護者へのアンケートにより、現行の制服の評価が高かったことから、制服はマイナーチェンジ。着心地、機能性はアップ。スラックスにはストライプの線が入っている。ネクタイの色は紺からグレーに。シャツは乾きやすく、しわになりにくい素材、袖口に反射板。ブレザーのボタンを3コから2コへ。

- 〔協議〕
・東大阪、八尾・柏原以外の就業・生活支援センター(以下、「就ボツ」という)との連携について ⇒生徒が在住している市町村との就ボツとの情報交換は行う予定。企業側からも就ボツとのつながりは卒業後大切だと実感している。
・卒業生に外部講師として「実習で気づいたこと」「働いて思うこと」などを在校生向けに話をする場を設けてもらえないか。本人の自信となり、仕事に対するモチベーションが上がり、定着率の向上につながると思う。 ⇒キャリア学習として卒業生による講演、授業を計画している。
・就労の定着に関してはマッチングが重要と感じている。職業スキルではなく自己理解が大切。令和7年10月からはじまる就労選択支援事業(1年生より利用できる)を活用してはどうか。こちらの連携も視野に入れてみては。 ⇒就労選択支援事業については承知している。その活用に関しては、具体的な計画を立てている事業所がまだ少なく、他校との調整も必要になってくるので、今後の動向を見て検討していく予定。
・ルールを守る大切さをたまがわの学校生活で学んできた。「生徒心得」には学校だけでなく、社会人となっても重要なことが記載されている。“安全で安心な学校生活を送るための約束”にも一般校ではあえて教えて貰えない内容が自分で判断する材料として記載されている。どこにも通用する有意義な内容だと思う。
・中学校の保護者として思うに、中学校の教員にたまがわの紹介はしているのか。中学校の教員が漠然とした知識しか持っていないのではないのか。中学校は高校から大学進学の話ばかり。共生推進教室に関しても高校の支援学級みたいなものの説明される。 ⇒中学校教員向けの説明会は行っている。全中学校の教員が共通理解を持つことができているかという点と難しい現実を感じている。残念ながら「高校卒業」にとらわれてしまっている保護者も多い。高校では何が学べるのか、高校進学で何が得られるのか、生徒の将来を考えて進路選択していただきたいと思っている。
・高等支援卒業と高等学校卒業の違いを教えもらいたい。 ⇒「高校卒業」と言えるかどうかということでしょうか。文部科学省的には、特別支援学校高等部卒業は高校相当の資格と言っている。最近では支援学校卒業であっても、多くの大学で受験資格として認めている(受験資格を決めるのは大学)。現実的には、学んでいる教育課程(教科等)が異なるので、支援学校から大学受験の難しさはある。
・本人の将来を見据え、どれだけ周囲の人たちが考えることができるかが重要。障がいの有無と関係なく「社会のルールを守ることができる人」を会社は求めている。そういう意味で”社会生活できる人”と一緒に働きたいと考えている。
・教育の役割は、自己肯定感を持たせ、自分の持っている力をどう発揮させていくかを考えていくこと。支援学校の役割は大きいと思う。

次回の会議日程

日時	令和7年5月
会場	たまがわ高等支援学校